

「磐城山遺跡第9次」

はじめに

調査原因	農地改良工事
調査期間	平成28年4月11日～平成29年3月30日
調査主体	鈴鹿市 文化スポーツ部 文化財課 発掘調査G
調査面積	約750㎡

1 調査の成果

1) 過去の調査

- ① 弥生時代後期 (約1,800年前) の環濠に区切られた集落 (竪穴住居) が200～300棟ある
- ② 古墳時代後期 (約1,500年前) の集落が調査区の東端に固まって数10棟ある
- ③ 古代? (約1,400年前) と推測される70mの前後の区画 (溝) がありそう
- ④ 調査区の西側で掘立柱建物が多い
- ⑤ 倉庫 (総柱建物) が区画溝と同じ方向を向いて何度も建て替えられている
- ⑥ 鎌倉・室町時代 (約700～500年前) の墓 (土坑墓) と、木田城関係と思しき地割溝がある

2) 第9次調査の成果

- ① 三重県最大級の竪穴建物の発見
- ② 倉庫群・区画溝の年代が、古墳時代後期頃までさかのぼる可能性が出てきた! ?

2 最大級の竪穴建物について

1) 大型竪穴建物の特徴 (写真1～3, 図1)

- 東西11.0m×南北9.2mで、床面積101.2㎡ ※ 県下No.2の大きさ
(No.1は四日市市菟上遺跡(IV様式)の東西14.6m, 南北9.7m, 床面積146.62㎡)
- 弥生時代後期前半 (1,900年前) の壺, 甕, 高杯等が出土
- 主柱穴は4本, 周壁溝が全周, 南辺中央に貯蔵穴, 火処(焼土)は床面に11ヶ所散在
- 壁柱穴とよばれる小柱穴を壁周りに確認 → 壁立式建物か?

2) 大型建物の意義 (写真4・5, 図2・3)

有力者の居宅 か 祭祀施設 か?

- 発掘では, 祭祀を推測させる遺物は出土しなかった
- 大きさの点を除くと, 他の住居跡とあまり差異は感じない
- ちょうど, 磐城山遺跡が盛行する直前段階の建物
→ 有力者の居宅 と考えるべきか?

※ 今後調査する範囲を含め, 他の同時期の施設などあわせて検討すること!

3 あらたに倉庫2棟を発見

1) 倉庫の特徴 (写真6~9, 図4)

- ・2×3間の総柱建物で倉庫と考えられる
- ・柱穴には拳大の礫が根固めとして組まれていた → 根巻き石
- ・2棟が建て替えられ、古い方(倉庫1)は区画溝の方位と一致する
- ・柱穴の一つから古墳時代後期(6世紀後半; 約1,450年前)の須恵器が出土した

2) 倉庫群と区画溝の性格 (図5・6)

- ・概ね方位が一致する(西へ約5度ふっている)
- ・倉庫は区画内部の同位置で建替えが何度もなされる
- ・倉庫以外の同一方向の建物が希薄
- ・建物が整然と建ち並ぶわけでない
- ・遺構の重複関係から弥生時代後期の竪穴住居よりも新しいことは判る
- ・柱穴の年代を決定するのは難しいが、古墳時代後期以降の遺物が出土する

↓

古墳時代終末から飛鳥時代である可能性が高い(6世紀後半~7世紀)

区画溝+重複する倉庫群+他は空白地帯から通常の集落とは異なる

↓

- | | |
|-------------------------------|--------|
| ① ^{みやげ} 屯倉...大和朝廷直轄地 | |
| ② 古代豪族の私的な倉庫群 | などの可能性 |

3) 6~7世紀頃の鈴鹿 (文献資料, 図9)

鈴鹿?の古代豪族として大鹿氏の存在が指摘されている

天皇家にも繋がる氏族で、地方では相当の権力を持っていたと推定される

屯倉の管理者?→後の郡司につながる可能性も...

おわりに~今後の発掘調査の予定~

今後、更に西へ調査区を拡張していく予定(図7・8)

- ① 区画溝の西辺の確認
- ② 区画内部の建物(倉庫?・居館?)の配置・構造の解明
- ③ 年代を特定できる出土遺物に期待